

2024~2025 年度クラブ運営方針  
「生み出そう感謝される喜びを」

国際ロータリー第 2750 地区 多摩中グループ

# 東京昭島中央ロータリークラブ

TOKYO AKISHIMA-CHUO ROTARY CLUB



2025 年（令和 7 年）5 月 28 日（水）  
第 1678 回例会報告

事務局 〒196-0034 東京都昭島市玉川町 3-10-1 ヒルパークハイツ 1F TEL 042-544-1001 FAX 042-544-1002

●本日の司会 (神野 次郎 SAA)

●開会点鐘 (田畑 勝久会長)

●ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱

●本日のお客様



NPO 法人「東京子どもホスピスプロジェクト」代表理事  
佐藤 良絵様（東京昭島ロータリークラブ）

●会務報告 (田畑 勝久会長)



皆さん、こんばんは。先週の 3 クラブ合同例会には多数のご参加をいただき、誠にありがとうございました。私のテーブルには東京タワースタジオの会長がいらして、色々なお話をさせていただいて、本当に夢のような時間でした。

さて、本日 5 月 28 日（水）、大相撲において「大の里」が第 74 代横綱に昇進しました。日本出身の横綱としては、師匠の二所ノ関親方（元・稀勢の里）以来、実に 8 年ぶりの誕生です。以下に、読売新聞の記事から全文を引用してご紹介いたします。

「強くなりた。僕も横綱になりたい」  
後の大の里となる小学 6 年の中村泰輝（たいき）少年は、父親の宗良氏を説得し、故郷の石川県津幡町から、新潟県系魚川市の中学校へ「相撲留学」することを決断した。わんぱく相撲でも入賞できなかった少年の原動力は、「横綱」という称号への憧れだった。

新潟海洋高校相撲部の田海哲也総監督は、当時の様子を鮮明に覚えている。中村少年は、小学 6 年の時に同校が優勝した金沢市での大会で、最前列に座って取り組みを見つめ、夢中でメモを取っていたという。明るい性格で、研究熱心。「強くなるな」と直感した田海監督は、2013 年、

中村少年を寮に受け入れた。

寮生活では、6 時間を超える猛稽古の日々。四股などの基礎練習を徹底的に繰り返し、寮から約 2 キロの道をダッシュで戻る練習も課せられた。スマートフォンの使用は禁止。それでも「強くなりた」という一心で、何でもやり抜いた。

「努力の天才」。恩師は、そう表現する。中村少年は、中学・高校と鍛錬を重ね、立ち合いの馬力を磨き続けた。その成果は日体大で開花し、1 年生で学生横綱に輝いた。その後も 1000 回のスクワットを 3 日間にわたって行い、陸上のハードトレーニングを取り入れるなど、肉体を鍛え続けた。寮で同部屋だった寺尾琢磨さんは、「ベッドの下をのぞけば、対戦相手の動画を見て研究していた。戦術コーチのような存在だった」と語る。

自信があるからこそ、どんな重圧も跳ね返した。3 年生、4 年生でアマチュア横綱に輝いた。2023 年夏場所で初土俵。師匠の二所ノ関親方（元横綱・稀勢の里）のもと、番付最高位である「横綱」を意識するようになった。年 6 場所制となった 1958 年以降、初土俵から最速となる「所要 13 場所」での昇進を果たした。これは歴代最速タイ記録である。初の 2000 年代生まれの横綱が加わったことで、大相撲は新時代を迎える。

私自身、昨年妻と一緒に国技館へ観戦に行った際に、大の里関に写真をお願いしたところ、快く応じてくださいました。体の大きさだけが強さではなく、継続した努力と研究心が一流の力士を育てるのだと実感しました。今後 10 年、大相撲界はますます盛り上がることでしょう。皆さまも機会があれば、ぜひ一度観戦に足を運んでみてください。

それから少し早いご案内ですが、1 か月後の最終例会についてお知らせです。竹内支店長のご配慮により、お酒の提供が可能となりました。この場所で開催いたしますので、ぜひご参加ください。

●ベネファクター 表彰



若杉 司会員

## ●幹事報告

(岡野 和弘幹事)



5月14日(水)例会でもご案内しましたが、本日ミャンマー中部で発生した大地震の被災地支援を目的とした支援金の募金箱を用意しておりますので、皆様のご協力よろしくお願い致します。

本日例会終了後理事会を開催しますので、理事の皆様は理事会のご出席をよろしくお願い致します。

## ●卓話「今を生きる」

東京昭島ロータリークラブ 佐藤 良絵様

### 講師紹介 (石岡 孝光会員)



佐藤様は株式会社ハブエンタテインメントの代表で、イベント企画・運営やダンススクールの運営、飲食店の経営、訪問看護事業の展開など幅広い分野で活躍されています。17歳でダンスを始め、多くのコンテストで入賞。スペインでフラメンコを学び、タレントの振付やテレビ・舞台・モデル・司会など多方面でご活躍されました。

今日は、佐藤様が代表を務めるNPO法人「東京子どもホスピスプロジェクト」の活動についてご講話いただきます。小児がんや難病と闘う子どもたちとそのご家族を支える活動を展開されており、「いまを生きる」というテーマでお話しいただきます。

今日は、佐藤様が代表を務めるNPO法人「東京子どもホスピスプロジェクト」の活動についてご講話いただきます。小児がんや難病と闘う子どもたちとそのご家族を支える活動を展開されており、「いまを生きる」というテーマでお話しいただきます。

## 卓話



皆さん、こんばんは。佐藤良絵と申します。今日は昭島中央ロータリークラブの皆様の前でお話しする機会をいただき、心より感謝申し上げます。

私は普段、昭島でエンタテインメント事業を行う会社を運営しています。今年で20年になります。

ディズニーのダッフィーの振付や、紅白出演者、USJのダンサーの育成など、華やかな世界に身を置いてきました。しかし今日は、私が立ち上げた「東京子どもホスピスプロジェクト」についてお話しさせていただきます。

このプロジェクトを始めたきっかけは、私の長男が高校生のときに骨肉腫を発症したことでした。本人の闘病に加えて、家族の生活も一変し、特に私と次男は心身ともに大きな影響を受けました。息子は2年間の闘病生活の末、20歳の誕生日の3日前に亡くなりました。この経験を通じて痛感したのは、日本には小児がんや難病の子どもとその家族を包括的に支援する制度や場所がほとんど存在しないという現実でした。退院後も学校に通えず、24時間の介護を必要とする子どもたち。彼らを支える親も、地域から孤立しがちです。アメリカでは医療とは別に、家族を支えるホスピス施設が整っており、私の家族も「日本は医療は発達しているのに、なぜホスピスがないのか」と驚いていました。私たちは病院と自宅を往復するだけで、支援も理解も得られないまま、苦しみ続けました。そんなとき、地元のロータリークラブの方々が声をかけてくだ

さいました。「ちょっとこれを届けてくれる?」「フルーツ取りに来てくれる?」その些細な頼み事が、私を外の世界へと導きました。この経験が「苦しみや悲しみを、社会の役に立つ活動に変えよう」と思うきっかけとなり、2020年にNPO法人東京子どもホスピスプロジェクトを立ち上げました。

日本では、障害者支援の施設は約5,500ありますが、小児がんや難病の子どもたちは障害者認定を受けられないため、制度の谷間に取り残されています。毎年約2,500人が小児がんと診断され、難病を含めると全国で約14万人の子どもが支援を必要としているにもかかわらず、東京には公的な子どもホスピスは一つもありません。私たちの活動は大きく5つあります。

### 【相談窓口】

病院では時間の制約があるため、LINEやSNSを活用し、いつでも相談できる体制を整えています。現在までに1,275件以上の相談を受けています。

### 【遊びの場 (ドリームルーム)】

免疫力が弱く保育園や学校に通えない子どもたちのために、感染対策を施した遊びの空間を西多摩地区に5か所設置。年間のべ550人以上が参加しています。

### 【学びの場】

闘病による学習の遅れを取り戻すため、学習支援を行っています。当団体は東京都の学習支援委託事業にも採択されています。

### 【グリーフケア】

お子さんを亡くされたご家族やきょうだいへの心理的な支援を行い、悲しみと向き合う時間を共にしています。

### 【研修・啓発活動】

看護師や支援者の養成、そして行政や学校への啓発活動を通じて、制度整備の後押しをしています。

ドリームルームでは「来月、クラスの友達と一緒に授業を受けたい」「原宿でタピオカが飲みたい」といった、健全な子どもたちには当たり前な夢を、子どもたち自身が大切に語ってくれます。また、兄弟も支援の対象です。私の次男のように、兄弟の病気によって夢を諦めなければならない現実があります。だからこそ、家族まるごと支援できる場所が必要です。私はこの活動を通じて、未来を失った母親の立場から、「他の家族には同じ思いをしてほしくない」と心から願っています。だから今、24時間365日体制で、小児がんや難病の子どもたちとその家族を支える、訪問看護ステーションを運営し続けています。

今日は私の話に耳を傾けてくださり、本当にありがとうございました。どうか、この現状を少しでも知っていただき、関心を持っていただけたら幸いです。

## 謝辞（岩本 勝宏会長エレクト）

佐藤さん、本日は本当に素晴らしいお話をありがとうございました。最初にご自身の職歴についてお話しされたときは、正直少し驚きました。とても華やかなお仕事をされてきた方が、今このような活動をされているとは思わず、意外な気持ちでお話を聞き始めたのですが、次第にその背景や思いが伝わってきて、胸を打たれました。

ご自身の大変なご経験があるからこそ、今、たくさんの子供たちやご家族に対して、心から寄り添った支援ができていたのだと感じました。「感心する」という言葉では収まりきれない、深く染み入るようなお話で、聞いていて心が動かされました。これからも、多くの子供たちやご家族の力になってくださることを、心より願っております。



## ニコニコ BOX

### （宇田川 泰弘親睦委員）



◎田畑会長  
NPO 法人「東京子どもホスピスプロジェクト」代表理事佐藤良絵様、卓話ありがとうございました。

◎下田会員  
体調が悪く欠席が多く申し訳ありません

○岡野幹事  
佐藤良絵様、本日は卓話ありがとうございました。

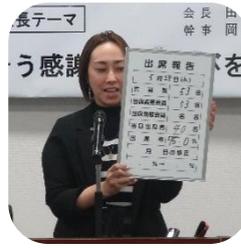
○石岡孝光会員  
佐藤良絵様 本日は卓話ありがとうございました。

○重森会員  
佐藤様 本日の卓話ありがとうございました。

・指田会員  
昭島ロータリークラブ佐藤様、ご来訪ありがとうございます。本日卓話ありがとうございました。

## ●出席報告

### （西 優希出席委員長）



会員数	53名
出席義務会員	53名
本日の出席	40名

## ●委員会報告

### （曳地 義正増強委員長）



今週、増強委員会からのご案内をファックスにて各会員の皆様にお送りしております。すでにお手元に届いているかと思いますが、今回は会員増強計画の一環として、ロータリアンとしてふさわしい方へ、ダイレクトメール（DM）をお送りいただきたく、ご協力をお願いするものです。具体的には、各会員の皆様に、少なくともお一人に向けてダイレクトメールを送っていただき、その後にフォローのお電話（アフターコール）をしていただきたいと思います。その結果については、後日ご報告をお願いする予定です。

本日、配布しているご案内の用紙には、宛先をご記入いただき、用紙の中央より少し下の位置に、ご自身の連絡先もご記入ください。そのうえで、郵送していただく流れとなっております。皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

## ●次週例会予定

### （重森 元樹プログラム委員長）



6月4日（水）  
卓話「モンゴルの子供たちに車椅子を」  
志賀義任 国際奉仕委員長

## ●閉会点鐘

### （田畑 勝久会長）